

保二小の矜恃

No. 1

西東京市立保谷第二小学校
校長 神山 繁樹

なぜ、 **Back to the basics** 自分を見つめ直す 《それぞれの達成目標》 なのか。

不定期ですが、校長室便りをお届けいたします。題名は、「保二小の矜恃」です。
この『矜恃(きょうじ)』という言葉は、自分の人生のターニングポイントとなるであろう日に、ある方から贈られた言葉で、「自分を信じて抱く誇り」という意味です。
私にとってのこの言葉は、事あるごとに、「今の判断はどうか?」「今の言動は恥ずべきことではないか?」と内省を促すものとなりました。

年度初め全体保護者会での私の学校経営方針を述べた資料でお示しした、本校教職員が目指す児童像と目指す自分自身の姿宣言、そして、皆さんへのメッセージ。
三者が自分の目標を達成する過程と結果全てが、“保二小の矜恃”となるのです。
そのことを皆で分かち合い、お互いの健闘を讃え合い、次にやるべき課題を明確に共有し、三者が協同・協働意識をもって保二小の子供と大人のために汗を流す。
何かを生み出す苦しさや辛さや我慢の時はあろうとも、常に前向きな姿勢で挑戦し、常に笑顔で挨拶と対話を交わし続ける。最後は、自分で自分の変容を自分の喜びとする。
そんな学校でありたい。

以上の想いを込めて、この校長室便りを発信します。
ご一読いただき、皆様の心に何かしらのキーワードが一つでも残れば嬉しいです。

さて、ご多用のところ全体保護者会、土曜学校公開&引き取り訓練、個人面談等にご参会いただきありがとうございます。

私としては、学校経営方針についてもう少し詳しくお話ししたいところでしたが、この便りで補足していくことができると考えています。

Back to the basics

学校教育の基礎・基本に戻って、自分たちがやってきたことをもう一度見つめ直そう!

4月始めに私が教職員に掲げたキーワードの一つです。
保二小に着任が決まった3月末に本校を来校したときから予感があったのですが、実際に4月に校長として学校内に身を置くと、いろいろなことに感動している自分がいました。
[教職員] 教職員の教育観、仕事観の確かさ。一つ一つの会議の緻密な意図と位置付けの明確さ。
「ホニ学のススメ」を軸とした学校力のレベルの高さ。主事による教育環境の美しさ。
[子供] 前日準備と始業式・入学式での6年生の凛々しい態度と1年生のお世話における仕事ぶり。
入学式前での2年生の態度と演技。全校朝会で1年生から6年生まで皆が体を向けて静かに話を聞く姿勢の素晴らしさ。先言後礼の礼儀作法、授業前後の一言。毎朝の挨拶当番の明るさと元気のよさ。4年生の飼育当番の優しさ。遠足電車でのマナーのよさ。
舞台上でマイク、原稿なしで、相手の目を見ながら話す6年各委員長。
[指導支援者・保護者・地域] 様々な指導支援の先生・保護者・地域の方々の主体的、協働的な安全指導、生活指導力の教育効果の大きさ。などなど。

これからもっともっと私の目の前に現れてくることでしょう。

保二小の素敵なおことに対して必ず取り組むべきことは、「自分たちが、何を、どのようにやってきたから今の状態があるのかを明らかにすること」

そして、そのことを自覚することで他の場面でも活用できるようになること。

何よりも、必死にやってきた自分自身を自分が認め、よきを受け入れることが必要なのです。

「保二小の子供たちが健全に育っているのは、自分の頑張りがあったからこそ。」と、自分自身の人間的高まり(人格形成)を誇りに思うことを皆さんと一緒にやっていきましょう。

それが、私が提唱する“保二小の矜恃”です。

一年間、“保二小の矜恃”づくりに、ご協同・協働よろしく申し上げます。